

「サヨンの鐘」関係文献抄（十一訂稿）

—本 HP 別稿「「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑— 参考資料—

（令和 4（2022）年 7 月 26 日（火）現在）

（補正経緯）

初稿：平成 18（2006）年 1 月 1 日作成

（HP 初出）：改訂稿：平成 20（2008）年 5 月 2 日作成

再訂稿：平成 20（2008）年 6 月 30 日作成

三訂稿：平成 21（2009）年 1 月 9 日作成

四訂稿：平成 21（2009）年 12 月 30 日（水）作成

五訂稿：平成 22（2010）年 1 月 15 日（金）作成

六訂稿：平成 22（2010）年 9 月 15 日（水）作成

七訂稿：平成 22（2010）年 9 月 20 日（月）作成

八訂稿：平成 22（2010）年 10 月 6 日（水）作成

九訂稿：平成 22（2010）年 11 月 2 日（火）作成

（原田大輔「日本統治下期台湾の皇民化政策研究—「サヨンの鐘」を中心として—」（平成 20 年度岐阜聖徳学園大学大学院国際文化研究科修士論文、指導教授中島利郎先生）等を追加）

十訂稿：平成 26（2014）年 11 月 2 日（日）作成

（平成 25（2013）年春下記の DVD『サヨンの鐘 松竹映画 銀幕の名花 傑作選』が刊行されたこと、平成 26（2014）年 9 月 7 日に山口淑子氏（李香蘭、1920～2014）が逝去された（9 月 14 日公表）こと等を追加）

十一訂稿：令和 4（2022）年 7 月 26 日（火）作成

（レイアウトを全面変更の上、一部補正した。ただし、前回改訂以来かなりの歳月が過ぎており、掲載 URL 中のかなりのものは現在では見る事が出来なくなっているが、今回は精査、補充できなかつたことをお断りしておく。）

〔目 次〕

1	はじめに	3
2	問題の所在	3
3	史実と物語	5
	(1) 概要	5
	(2) 下村作次郎教授論稿	6
	(3) 四方田犬彦教授論稿	7
	(4) その他	7
4	歌	10
	(1) レコード作成の経緯	10
	(2) 歌詞	12
	(3) 曲譜	13
	(4) 中国語版	13
5	映画	14
	(1) 映画資料	14
	(補記 1)、(補記 2)、(補記 3)	14～15
	(2) 映画主題歌、挿入歌	15
6	その他	17
	(1) 田北正記氏のこと	17
	(2) 「幻想組曲『サヨンの鐘』」	18
	(3) 『台湾協会報』所収論稿	18
	(4) 『台湾警察時報』、『理蕃の友』所収論稿	19
	(5) 蕃社関係の歌	19
	① 「蕃社の娘」	20
	② 「思い出の蕃山」	21
	③ 「なつかしの蕃社」	21
	(附録) 本 HP 掲載の日本統治下台湾関係歌稿	21

1 はじめに

本稿は、かつて、本 HP 掲載別稿「「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑—」—日本統治下台湾警察史の一齣—¹の初稿段階において、その参考資料として作成したものであるが、近時ネットの「You Tube」や「YOUMAKER (優美客)」で、関係歌謡のほとんどが収録されたことでもあるので、今般、その後知り得たこと等を踏まえ、二、三補訂した。しかしながら、未だ不十分なものであり、大方の御示教を切にお願いする次第である。

2 問題の所在

日本統治下台湾においては、歌謡曲、社歌、校歌、寮歌、記念歌の類が多数作られたが、歌謡曲の決定版というべきは、台湾語の歌では「雨夜花」²（ウヤホエ、昭和 9 年、周添旺（1910～1988）作詞、鄧雨賢（1906～1944）作曲）³、日本語の歌では「サヨンの鐘」⁴で

¹ <https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sayun001.pdf> これは、最初、『台湾協会報』第 606 号（平成 17 年 3 月 15 日刊）に掲載し、その後、一、二改訂を施し、『鷺巣敦哉とその時代（続々輯）—日本統治下台湾警察史雑纂』第六輯—』（平成 18（2006）年 1 月 1 日刊）に収録したが、本 HP で、更に補訂を加えつつあるものである。なお、後者（改訂稿）には、続けて、「サヨンの鐘」に関する各種文献資料紹介を収録したが、本稿（「「サヨンの鐘」関係文献抄 一本 HP 別稿「「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑—」参考資料—）は、これを補訂したものである。

² 本歌は、日本統治を絡めた歌詞との説もある。歌そのものは、従来、「You Tube」や「YOUMAKER」等で、鄧麗君（1953～1995）の台湾語のもの等が聞けた。例えば、下記の如し。

<http://www.youmaker.com/video/sv?id=1f83a40abe494c308d2d87efb7377136001>

その後、平成 20（2008）年 5 月 17 日に、渡辺はま子歌の日本語のもの（「雨の夜の花」（昭和 17 年 11 月：西條八十作詞））が掲載された。貴重である（渡辺はま子歌の部分：平成 20 年 5 月 18 日追加）。

<http://jp.youtube.com/watch?v=udA9NQymPkM>

更に、平成 20（2008）年 5 月 22 日に、「You Tube」に、下記鄧麗君による日本語、台湾語のものが掲載された。

<http://www.youmaker.com/video/sv?id=453b2aba74c74247a11cb2a08314d7b0001>

戦時中には、「誉れの軍夫」（栗原白也作詞、鄧雨賢作曲、奥山貞吉編曲、霧島昇歌）なる時局歌曲（時局歌）の「替え歌」も作られた。

<http://tw.myblog.yahoo.com/cfz9155cfz0678sv-cfz9155cfz0678sv/article?mid=6973&prev=7302&next=6351&l=f&fid=33>。

戦後には、カバー曲として、「南国哀歌」（昭和 40 年、コロンビア、大矢弘子作詞、塩瀬重雄編曲、こまどり姉妹歌）、「南国の花」（昭和 40 年 7 月、ビクター、邱永漢作詞、寺岡真三編曲、三沢あけみ歌）がある。うち、「南国哀歌」は、最近 You Tube でも聴くことができる（平成 21 年 8 月 16 日、同年 10 月 26 日各アップ、平成 21 年 12 月 30 日一部補正）。更に、その後、「南国の花」も、You Tube で見るできるようになった（平成 22 年 3 月 5 日アップ）（平成 22 年 9 月 15 日追加）。

詳しくは、本 HP 別稿「ネット等に聴く戦前期の台湾歌謡曲 「雨夜花」と「サヨンの鐘」を中心に— 日本統治下台湾諸歌の一齣—」（平成 21 年 12 月 27 日三訂稿）参照。

<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/netkayo.pdf>

³ 鄧雨賢について、邦文文献では、例えば、謝新発（1931～）「5 台湾が生んだ世界の名作曲家」『誰にも A いて、ネットでは、例えば、「[PDF] 高苑科技大學應用外語系應用語言專題實作（大學部）」参照。

「望春風」（李臨秋作詞、鄧雨賢作曲）については、例えば、「YOUMAKER」の下記のサイト参照。

<http://www.youmaker.com/video/sv?id=c023121417454a5aafd81fd844d6e42b001>

これは、戦時中、「大地は招く」（栗原白也作詞、鄧雨賢作曲、霧島昇歌）なる「替え歌」が作られた。

<http://tw.myblog.yahoo.com/cfz9155cfz0678sv-cfz9155cfz0678sv/article?mid=4558&prev=5078&next=2399&l=f&fid=33>

また、「月夜愁」（1933 年、周添旺作詞、鄧雨賢作曲）は、例えば、「YOUMAKER」の下記のサイト

はないかと思われる。

他方、社歌、校歌、寮歌、記念歌中では、澤村専太郎（胡夷、1884～1930）作詞、一條慎三郎（1870～1945）作曲「台湾警察歌」（昭和4（1929）年1月台湾総督府警務局制定）が、最も興味深い。

歌「サヨンの鐘」について戦後初めて本格的に言及したのは、昭和51（1976）年夏に刊行された鈴木明（1929～2003）『高砂族に捧げる』（「5 サヨンの幻」、中央公論社、昭和51年8月10日刊、中公文庫本（昭和55年8月10日刊）128～130頁参照。）かと考えられる。加えて、同時期の鈴木氏の書『そしてわが歌 もう一つの《リリー・マルレーン》を

参照。

〈<http://www.youmaker.com/video/sa?id=227f73dd21234c7ebab308c82ac24543001>〉

これも、戦時中「軍夫の妻」（栗原白也作詞、鄧雨賢作曲、服部良一編曲、渡辺はま子歌）なる「替え歌」が作られた。

〈<http://tw.myblog.yahoo.com/cfz9155cfz0678sv-cfz9155cfz0678sv/article?mid=7302&prev=7644&next=6973&l=f&fid=33>〉

4 「サヨンの鐘」は、平成20（2008）年1月12日、「You Tube」に渡辺はま子の当時のものが掲載された〈<http://jp.youtube.com/watch?v=G54YpWBhp3I>〉。

その後、同じ「You Tube」に、胡美芳（1926～2009.11.7）のものも掲載された。

〈<http://jp.youtube.com/watch?v=ZiWC7DW4HFU&feature=related>〉（平成20年4月6日掲載。ただし、平成20年6月30日現在では、削除されたのか閲覧不能である。）

また、「サヨンの鐘」は、戦後の台湾では、そのメロディを用いて、「月光小夜曲」として歌われている。例えば、「YOU MAKER」の「月光小夜曲」には、次のものがある。

〈<http://www.youmaker.com/video/search>〉、

（蔡琴歌）：

〈<http://www.youmaker.com/video/sv?id=fcf877ad5ae448c4855fd21bdc8887a2001>〉

（この項、平成20年6月29日一部修正）

なお、この他、広東語（粵語）のものとして、「毎當變幻時」（広東語。1977年、薰妮。張偉文等）があり、「You Tube」で見ることができる

薰妮：〈<http://www.youtube.com/watch?v=120-8BE8E7o>〉（平成22年9月20日追加）

5 澤村胡夷や「台湾警察歌」については、一般的には、大嶋知子（1944～）『澤村胡夷全詩集』（中央公論事業出版、昭和42年3月3日刊）、神陵史編集委員会『神陵史—第三高等学校八十年史—』（河野 勳〈執筆〉、上横手雅敬（1931～）「あとがき」、三高同窓会、昭和55年3月31日刊）、海堀昶「澤村胡夷作詞の歌 新発見台湾警察歌」三高同窓会『会報』第97号（平成15年3月31日）等各参照。なお、平成17（2005）年秋には、澤村胡夷「紅もゆる」百年記念で、三高同窓会で記念行事があったとのことである。HP「三高私説」〈<http://www2s.biglobe.ne.jp/~tbc00346/component/index.html>〉参照。

個人的には、先に、「澤村胡夷と台湾警察歌」『台湾協会報』第580号（平成15年1月15日刊）〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawamura001.pdf>〉、「一條慎三郎について—日本時代台湾音楽史の一齣—」『台湾協会報』第586号（平成15年7月15日刊）〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichijo001.pdf>〉、台湾総督府警察官及司獄官練習所歌につき「台湾総督府警察官及司獄官練習所歌一斑—『椰子の実みのる』をめぐって—」『台湾協会報』第594号（平成16年3月15日刊。その曲は土井晚翠「星落秋風五丈原」譜である。）等を作成した。

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/renshushouta.pdf>〉

この他、戦前の警察歌「我帽章の朝日影」（大正9年5月1日当選）については、『警察協会雑誌』第235号（大正8年12月25日刊）見開き裏、同第240号（大正9年5月25日刊）39、40頁参照。また、戦後日本の警察歌については、例えば、渡辺忠威（1926～1987）「警察歌についての一考察」『警察学論集』第33巻第9号（昭和55年9月刊）参照。

たずねて』(「“永遠の女性”を求めて《サヨンの鐘》(71～96頁)、ティビーエス・ブリタリカ、昭和51年8月20日刊)71～96頁も、必読といえる。

歌「サヨンの鐘」については、今では、日台両国の多数の方がインターネットにも種々記載し、極めてよく知られているが、史実を踏まえて、① 物語、② 歌、③ 映画の三方面から見てく必要がある。如此き中で、何故か、②歌「サヨンの鐘」の曲譜がなかなか見当たらないため、先年(財)台湾協会事務局に願って、『台湾協会報』に依頼文を載せた(同紙第597号(平成16年6月15日刊))ところ、早速多数会員各位より曲譜その他につき貴重な教示を得た(同紙第599号(同年8月15日刊))。

当時、これを受けて、それらの中で知り得たことを、資料的に二、三紹介した⁶が、本稿は、その際に渉猟した各種文献の一部について整理したものである。歌「サヨン鐘」探求の一つのよすがともなれば幸甚である⁷。

なお、「サヨンの鐘」関係の研究は、近年著しく進捗しつつあるが、平成19(2007)年6月には、待望の下村作次郎編『「サヨンの鐘」関係資料集』(日本統治期台湾文学集成28、緑蔭書房、平成19年6月30日刊)が刊行された。また、平成20(2008)年2月には、呉佩珍「「サヨンの鐘」神話の解体—真杉静枝「リオン・ハヨンの谿」と「ことづけ」を中心に—」『社会文学』第27号(日本社会文学会、平成20年2月25日刊)が出たことを記しておく⁸。

3 史実と物語

(1) 概要

「サヨンの鐘」の史実については、警察関係の雑誌では、加奈原楮(台北州)「蕃界銃後哀話 サヨンの死」『台湾警察時報』第279号(昭和13年2月1日刊)101～103頁、当時台湾総督府警務局が作成した後掲「愛国乙女 サヨンの鐘」『理蕃の友』第117号(昭和16年9月刊。緑蔭書房『復刻版』第三卷(平成5年10月10日刊)所収)はじめ同誌所載諸論稿(第111号(昭和16年3月刊。同)～第123号(昭和17年3月刊。同))等に詳しい(平成22年11月2日一部補正)。

近年では、日本統治期台湾文学史研究上からも、「物語」として大きな視点が注がれつつある。特に、下村作次郎(1949～)、四方田犬彦(1953～)両教授の下記の諸論稿がその成立過程等を詳細に追及して、その意義を論じており、これらで、全容がほぼ判明する。関係文献のほとんども、ここに収録されている。また、中島利郎教授(1947～)編著『日

⁶ 本 HP 掲載別稿「「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑— 一日本統治下台湾警察史の一齣—」(<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sayun001.pdf>)を指す。

⁷ その後、本 HP に、「再び澤村胡夷作詞「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」について(三訂稿) 一日本統治下台湾警察史の一齣—」(平成20年6月29日作成)をも掲載した

(<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/futatabi.pdf>)。

⁸ 「サヨンの鐘」を理解する上で、下記 HP 「2009年春・台湾(4) サヨンの鐘～映画『練習曲』の舞台～」は、寔に興味深いものがある。(平成22年9月20日追加)

(<http://haggy23.cocolog-nifty.com/shanghai/2009/03/2009-be70.html>)

本統治期台湾文学小辞典』（緑蔭書房、平成 17 年 3 月 31 日刊）の「第 8 章 日本人作家の台頭 4 サヨンの鐘」（253 頁、269、275～278 頁。なお、同章は下村作次郎教授と共編の由。）は、資料的に寔に貴重である。

なお、「サヨンの鐘」関係の研究は、上述のように、近次進捗しつつあるが、去る平成 19（2007）年 6 月には、待望の下村作次郎編『「サヨンの鐘」関係資料集』（日本統治期台湾文学集成 28、緑蔭書房、平成 19 年 6 月 30 日刊）⁹が刊行され、当時の多数の資料が復刻された。この中で、とりわけ、長尾和男『純情物語愛国乙女 サヨンの鐘』（皇道精神研究普及会、昭和 18 年 7 月刊）所収の「リヨヘン探訪記」及び「サヨン・ハヨンに関する略年譜」は、「サヨンの鐘」研究上特に重要であるとされる。

（2）下村作次郎教授論稿

下村作次郎教授は、「サヨンの鐘」関係について多くの御著作を公表されておられ、これらについては、天理大学 HP 中の下記同教授関係サイトが詳しいが、以下には、その一部を記載しておく。

〈<http://www.tenri-u.ac.jp/teachers/dv457k0000001zyl.html>〉。

- ① 「『サヨンの鐘』物語の生成と流布過程に関する実証的研究（1）」 『天理台湾学会年報』第 10 号（天理台湾学会、平成 13 年 3 月 1 日刊）
- ② 「日本から逆輸入された『サヨンの鐘』の物語—中央舞台の台湾上演と呉漫沙の『サヨンの鐘』」 藤井省三（1952～）・黄英哲（1956～）・垂水千穂（1957～）編『台湾の「大東亜戦争」』（東京大学出版会、平成 14 年 12 月 20 日刊。もともと上記「実証的研究」の（2）として構想されたものの由。）
- ③ 「各種『サヨンの鐘』の検討—劇本・小説二冊・シナリオ・教科書—」 『中国文化研

⁹ 下村作次郎編『「サヨンの鐘」関係資料集』（日本統治期台湾文学集成 28、緑蔭書房、平成 19 年 6 月 30 日刊）は、以下の内容を有する（nacsis webcat の記載等に拠る。）。

〈<http://webcat.nii.ac.jp/cgi-bin/shsproc?id=BA82549722>〉

「東京：緑蔭書房、2007.6 652p；20cm. --（日本統治期台湾文学集成；第 2 期；28）（下村教授の「作品解説」あり。）

内容：莎秧的鐘（サヨンのかね）：愛国小説 / 呉漫沙著；林海樹畫；サヨンの鐘 / 呉漫沙著；春光淵譯；サヨンの鐘：純情物語愛国乙女 / 長尾和男著；サヨンの鐘 / 村上元三 [作]；サヨンの鐘：長唄新曲 / 木村富子 [作詞]；杵屋勝太郎作曲；サヨンの鐘：映畫脚本；十七 サヨンの鐘 / [台湾総督府編]

注記：影印版；底本：「莎秧的鐘：愛国小説」（呉漫沙著，南方雜誌社 1943 年再版）。「サヨンの鐘」（呉漫沙著，東亜出版社 1943 年再版）。「サヨンの鐘：純情物語愛国乙女」（長尾和男著，皇道精神研究普及會 1943 年）。「サヨンの鐘（『国民演劇』第 1 卷第 10 号）」（村上元三 [作]，1941 年）。「サヨンの鐘：長唄新曲（『国民演劇』第 2 卷第 6 号）」（木村富子 [作詞] 杵屋勝太郎作曲，1942 年）。「サヨンの鐘（『台湾時報』第 281 号）」（1943 年）。「サヨンの鐘（『初等科国語 5』）」（台湾総督府 1944 年）；作品初出一覧：p631-632；『サヨンの鐘』物語関連年表：p648-651；参考論文：p651-652」

- 究』第19号(『中文研究』改題、天理大学国際文化学部中国学科研究室、平成15年3月15日刊)(②とともに上記「実証的研究」の(2)として構想されたものの由。)
- ④ 「従霧社事件到『サヨンの鐘』」 成功大学(台南)台湾文学研究所主催シンポジウム配布論文(2001(平成13)年3月15日、未見、下記四方田教授③『李香蘭と東アジア』参考文献xivによる。)
- ⑤ 「日教授訪宜 要為莎韻(サヨン)出書」 『中国時報』2004(平成16)年9月4日記事(同記事によれば、下村教授は、平成17(マ)年出版予定の「サヨンの鐘」関係専書のため平成16年9月3日現地を訪問、サヨン実姉の卓清香(チハン・ハヨン)氏等にお会いになった由である。)
- ⑥ 「物語の終焉——映画と教科書の『サヨンの鐘』」 山本春樹・黄智慧・パスヤ・ポイツォヌ・下村作次郎編『台湾原住民族の現在』(草風館、平成16年12月20日刊)(上記「実証的研究」の(3)として構想されたものの由。)
- ⑦ 後掲中島利郎(1947～)「第8章 日本人作家の台頭 4 サヨンの鐘」『日本統治期台湾文学小辞典』(緑蔭書房、平成17年3月31日刊)253頁、269、275～278頁(なお、本章は下村作次郎教授と共編の由。貴重な写真が特に素晴らしい。)
- ⑧ 『台湾近代文学の諸相：1920年から1949年』(出版地不明、下村作次郎、平成17年9月刊、436p)(注記：学位論文：関西大学 博士(文学) 乙第328号 平成16.9.22；参考文献：p379-399；台湾文学略年表(1894年-1949年)：p400-413)(未見。CiNii参照。平成22年10月6日追加)
- ⑨ 下村作次郎編『「サヨンの鐘」関係資料集』(日本統治期台湾文学集成28、緑蔭書房、平成19年6月30日刊。下村教授の「作品解説」あり。)

(3) 四方田大彦教授論稿

- ① 『日本映画史100年』(集英社新書、平成12年3月22日刊)110、111頁、120頁
- ② 『日本の女優』(「第3章 李香蘭1920～46」、岩波書店、平成12年6月25日刊)125～129頁、註330、331頁
- ③ (編)『李香蘭と東アジア』(口絵等、東京大学出版会、平成13年12月20日刊)
- ④ 「下村作次郎論文へのプレリュード サヨン神話とその映画化」 前掲『台湾の「大東亜戦争」』(東京大学出版会、平成14年12月20日刊)

(4) その他

- ①-1 謝新発(1931～)「5 台湾が生んだ世界の名作曲家」『誰にも書けなかった台湾』(台北・自己出版、民国69(1980、昭和55)年10月3日以降刊(未見)、第2版：民国69(1980、昭和55)年12月30日刊)117～146頁中125～127頁(平成21年12月30日追加)
- ①-2 はじめて「サヨンの鐘」の物語を作品化(『国民演劇』第1巻第10号(昭和16年12月刊)49～66頁、台湾總督府情報部推薦)した村上元三(1910～2006)の本件に関する

る戦後の回想として、村上元三『思い出の時代作家たち』（文藝春秋、平成7年3月20日刊）47～49頁、182～185頁参照。これは、その師たる長谷川伸（1884～1963、去る平成16（2004）年には生誕120年記念各種行事があったとの由。）との関係による。長谷川は、当時、台湾総督府の招きで渡台し、浜田弥兵衛（映画『南方発展史 海の豪族』（日活、昭和17年10月）、鄭成功（1624～1662、小説『国姓爺 芝虎の巻』（大道書房、昭和18年刊））関係を調査、執筆したが、この時に、村上も随行していた。

② 「サヨンの鐘」に関する報道番組としては、「初めて戦争を知った〔2〕 幻の歌 “サヨンの鐘の謎”」（NHKドキュメンタリー、平成3年8月3日放映、現在では例えば横浜情報文化センター内の放送ライブラリーで視聴可能）が有名である。これについては、<http://www.bpci.or.jp/search/index.php>）参照。

③ 林えいだい（1933～〔2017〕）『台湾植民地統治史』（梓書院、平成7年9月刊）113頁

④ 安藤正夫（?～）「サヨンの鐘物語」名越二荒之助・草開省三編『台湾と日本・交流秘話』（展転社、平成8年4月3日刊）93～97頁

⑤ 早乙女勝元（1932～〔2022〕）『台湾からの手紙 霧社事件・サヨンの旅から 母と子でみる30』（草の根出版会、平成8年8月26日刊）87頁以下は、サヨンの実姉卓清香（前述、チハン・ハヨン）の話等を伝える。

⑥-1 宮本孝（1948～）『玉蘭荘の金曜日—台湾に生きる日本人妻たちの戦後50年—』（展転社、平成9年6月9日刊）122頁以下は、サヨンの実姉卓清香（前述、チハンサヨン、この時点で78歳）の話を書いている。台湾に残る日本人妻の件、『台湾万葉集』にも言及されている。

⑥-2 蜂矢宣朗（1920～2014）「莎韻之鐘的迷思 サヨンの鐘のミステリー（上）」『東洋思想』第29号（奈良・東洋思想研究所、平成12年9月29日刊）16～21頁、「同（中）」同第30号（復刊第21号、同、平成12年12月29日刊）5～10頁、「同（下）」同第31号（復刊第22号、同、平成13年2月20日刊）11～16頁（中島利郎先生の御教示。平成22年11月2日追加）⇒初出は蜂矢宣朗『続続湾生の記』（私刊本、平成12年1月12日刊）71～83頁か。特に同稿71、72頁は、上記鈴木明（1929～2003）『高砂族に捧げる』（「5 サヨンの幻」、中央公論社、昭和51年8月10日刊、中公文庫本〈昭和55年8月10日刊）128～130頁参照。）との関連記載がある。（平成26年11月1日追加）

⑦ 中村勝（1944～）『台湾高地先住民の歴史人類学：清朝・日帝初期統治政策の研究』（緑蔭書房、平成15年5月30日）3～5頁

⑧ 松本逸也（1946～）『「脱亜」の群像 大日本帝国漂流』（『マライの虎』と『サヨンの鐘』—英雄伝説はこうして作り出された—）、人間と歴史社、平成16年6月10日）（サヨンの姉とともに、妹ラワ・ハヨンの話を載せる。）。)

⑨ 中村信子（1930～）「蘇澳・南方澳と私の祖父—最初に土着した民間日本人—」『台湾協会報』第601号（平成16年10月15日）（サヨンの出身地の近時リヨヘン村のことにも言及する。中村氏は『植民地台湾の日本女性生活史』全4巻（田畑書店、平成7～13年刊）の著者。）なお、その他の『台湾協会報』関係資料については後述6（3）参照。

⑩ 宮本孝（⑥参照）『なぜ台湾はこんなに懐かしいのか—台湾に「日本」を訪ねる旅』（展

転社、平成 16 年 11 月 19 日刊) 137 頁以下は「第十三章 山間にサヨンの歌響く (南澳—宜蘭)」を掲載する。

⑪ 中島利郎 (1947～)「第 8 章 日本人作家の台頭 4 サヨンの鐘」『日本統治期台湾文学小辞典』(緑蔭書房、平成 17 年 3 月 31 日刊) 253 頁、269、275～278 頁 (なお、本章は下村作次郎教授と共編の由。貴重な写真が特に素晴らしい。)

⑫ 片倉佳史 (1969～)『観光コースでない台湾 歩いて見る歴史と風土』(高文研、平成 17 年 7 月 1 日刊) 135～137 頁は、「南澳—日本語が生きる村を訪ねる」を掲載し、石碑「愛国乙女サヨン遭難之地」の写真がある。(⇒後掲⑳参照)

〈<http://www.karube.net/AVSEQ33.htm>〉参照。

⑬ 台湾の資料の代表的なものとしては、夙に周婉窈 (1956～)『「莎勇 (サヨン) 之鐘」的故事及其波瀾』(『歴史月刊』第 46 期、台北、歴史月刊社、1991 (平成 3 年) 年 1 月 1 日刊) があったが、これは、近年、同『海行兮的時代—日本殖民統治末期台湾史論集』(允晨文化公司、2003 (平成 15) 年 2 月刊) に収録された。

⑭ 中島利郎・黄英哲 (1956～) 編『周金波日本語作品集』(緑蔭書房、平成 10 年 3 月 6 日刊。周金波 (1920～1996)) 263 頁以下に、戦後台湾で作られた映画『紗蓉 (サヨン)』(1958 年) の製作経緯が記載されている。同書口絵にポスター 2 枚が掲載。ただし、当該映画は、筋が改編されているという。

⑮ 中島利郎編『台湾戯曲・脚本集五』(日本統治期台湾文学集成 14、緑蔭書房、平成 15 年 2 月 28 日刊) 391～410 頁に、映画脚本『サヨンの鐘』(『台湾時報』281 号、昭和 18 年 5 月 15 日刊) が収録されている (平成 20 年 5 月 6 日追加)。

⑯ フェイ・阮・クリーマン著・林ゆう子訳『大日本帝国のクレオール (植民地期台湾の日本文学)』(慶應義塾大学出版会、平成 19 年 11 月 10 日刊) 51～54 頁 (平成 20 年 5 月 6 日追加)

⑰ 呉佩珍「「サヨンの鐘」神話の解体—真杉静枝「リオン・ハヨンの谿」と「ことづけ」を中心に—」『社会文学』第 27 号 (日本社会文学学会、平成 20 年 2 月 25 日刊)

⑱ 窪田守弘 (1944～)『銀幕の即興詩人 清水宏の生涯と作品』(風媒社、平成 20 (2008) 年 3 月 25 日刊) 映画『サヨンの鐘』の件に詳しい。44、87、90、119、120、144、150、151、153、216～224、244、331、352、358、379、380、400、401 頁)。(平成 22 年 1 月 15 日追加)

⑲ 「You Tube」に、平成 20 (2008) 年 5 月 28 日、台湾の方の掲載と思われるが、塩月桃甫 (1886～1954)¹⁰の有名な油絵「サヨンの鐘」を表紙にした「莎韻之鐘「サヨンの鐘」」が掲載された¹¹。ここでは、画「サヨンの鐘」の紹介として掲載しておく。(平成 20 年 6 月 30 日追加)

⑳ 『東京新聞』平成 20 年 12 月 17 日 (水) 朝刊第 11 版第 6 面「出征助けた少女の遭難『サヨンの鐘』 美談か不幸な事件か」(サヨンの甥のバトゥ・ハヨン氏が出ている。)(平成 21 年 1 月 9 日追加)

㉑ 原田大輔「日本統治下期台湾の皇民化政策研究—「サヨンの鐘」を中心として—」(平

¹⁰ 塩月桃甫は当時台湾の著名な画家。同氏につき、例えば、下記参照。ここには、画「台湾の娘」が掲載されている。〈http://www.miyazaki-c.ed.jp/himukagaku/unit/yume_07/page1.html〉

¹¹ 「莎韻之鐘「サヨンの鐘」」: 〈<http://jp.youtube.com/watch?v=w8ilpWgTYTk>〉

成 20 年度岐阜聖徳学園大学大学院国際文化研究科修士論文、指導教授中島利郎先生) (中島利郎教授の御教示に拠る。当時の政治史を踏まえた貴重な論稿であり、追って検討の予定でいる。平成 22 年 11 月 2 日追加)

㉒ 片倉佳史 (1969～) 「歌声となって残る小さな物語—愛国乙女サヨンの哀話 (宜蘭県南澳郷)」『台湾に生きている「日本」』(祥伝社新書、平成 21 年 3 月 5 日刊) 206～219 頁 (⇒前掲㉑参照) (平成 21 年 12 月 30 日追加)

㉓ 上笙一郎 (1933～ [2015]) 「国定教科書の「君が代少年」まで 日本植民地児童文学史稿・68 —台湾篇の㉒」『日本古書通信』第 1022 号 (平成 26 年 9 月号、同年 9 月 15 日刊) 36 頁 (平成 26 年 11 月 2 日追加)

㉔ 上笙一郎 (1933～ [2015]) 「国定教科書「サヨンの鐘」まで 日本植民地児童文学史稿・69 —台湾篇の㉓」『日本古書通信』第 1023 号 (平成 26 年 10 月号、同年 10 月 15 日刊) 34 頁 (平成 26 年 11 月 2 日追加)

(参考・台湾ネット資料)

① 台湾の澤庵氏の HP 「植民世代」に、「歌曲『莎韻之鐘』 相關文獻的查證」
<<http://tw.myblog.yahoo.com/jw!VC00iUmLHwKalCCy98M4/article?mid=104&prev=-1&next=97>> が掲載された (2007 (平成 19) 年 11 月 12 日)。本 HP には、その他多数の関係資料が掲載されている (平成 21 年 1 月 9 日追加)。

② 「陳凱劭的 BLOG 陳凱劭的文章、攝影、評論、活動記錄的部落格」の「サヨンの鐘 (Sayon no kane) ,1943」も興味深い (平成 20 年 5 月 8 日閲覧)。

<<http://blog.kaishao.idv.tw/?p=1152#comment-10857>> (平成 20 年 5 月 8 日追加)

4 歌

(1) レコード作成の経緯

歌「サヨンの鐘」のレコードは、昭和 16 (1941) 年 10 月に発売された (100357A: 西條八十 (1892～1970) 作詞、古賀政男 (1904～1978) 作曲、奥山貞吉 (1887～1956) 編曲、渡辺はま子 (1910～1999) 歌、3 分 40 秒、録音は同年 7 月か?。裏面: 100357B: 西條八十作詞、服部良一 (1907～1993) 作曲、霧島昇 (1913～1984) 歌「南の星」¹²⁾。歌

¹²⁾ 「南の星」(昭和 16 (1941) 年 10 月、コロンビア B 面。A 面: 上記「サヨンの鐘」) も、平成 20 (2008) 年 3 月 15 日に「You Tube」に掲載された。

<<http://jp.youtube.com/watch?v=DxexLhBvKIs>> 参照。

西條八十 (1892～1970) 作詞、服部良一 (1907～1993) 作曲、霧島昇 (1913～1984) 歌

1 赤いヂヤスミン 花咲く島で 若い一夜 (いちや) の旅の船

聴いた蕃社 (ばんしや) の娘の歌が 忘らりよか 忘らりよか 南の星よ

2 夢の黒潮 小舟で越える 男二十歳 (はたち) の春のくれ

波の旅路の行手に見えた 色はむらさき 南の星よ

3 厦門 (アモイ) 通ひか 別れの汽笛 泣いて送るは誰ぢややら

「サヨンの鐘」に関しては、早くより各種カセット、CD が作成されている。なお、映画『サヨンの鐘』主題歌、挿入歌については、後掲「5 映画」の個所で言及する。

例えば、「オリジナル原盤一懐しの針音 渡辺はま子第二集『サヨンの鐘』（日本コロムビア、昭和 52 年 4 月）の森一也（1915～）解説は、「本集に寄せられた創唱者の言葉—では本集に収められた曲について、（渡辺）女史に思い出を語っていただきましょう。」「『サヨンの鐘』は、戦争中のある朝、私は新聞で、『日本人の小学校教師（ママ、田北正記氏、実際はリヨヘン駐在所の警手）の出征を見送ろうとして、濁流に消えた蕃社の少女』の記事を読み、大変感動したので、台湾総督府の長谷川（清）閣下の許可をいただき、レコードにしました。」と記載している。

また、『オリジナル盤による秘蔵盤・昭和（SP 時代）の流行歌』（発売元：日本コロムビア、昭和 55 年 7 月刊）は、第 25 面で、「198 サヨンの鐘」及び「199 南の星」を収録しているが、その『解説編』97 頁に、南葉二による各解説が掲載されている。（この部分：平成 21 年 1 月 9 日追加）

「サヨンの鐘」の作詞者は、もとより西條八十であるが、上記下村教授①167 頁は、『台湾芸術』第 3 巻第 11 号（台湾芸術社、昭和 17 年 11 月刊）11 頁掲載の「今日の話題」によれば、当初中山侑（すすむ、1909～1959、昭和 9 年夏から同 12 年 6 月頃までの一時台湾警察協会にあって『台湾警察時報』の編集に従事し、その後台北放送局に入った。）が原作を作り、その後、「多少修正を加へ中央流行作家西條八十氏歌」としてレコード発売したという逸話を載せている¹³。

中山侑と「サヨンの鐘」につきては、中島利郎教授『日本統治期台湾文学研究序説』（緑蔭書房、平成 16 年 3 月 31 日刊）「第 2 章 附録 中山侑著作年譜」75 頁が、「昭和 16 年 9 月 10 日、歌謡物語『サヨンの鐘』（作：中山侑、独唱：佐塚佐和子、物語：岡アナウンサー）を放送」を載せており、おそらくや何かあると思われるが、現時点ではなお不明である。中山は、当時蕃社のことについても多くのものを書いている（上記「中山侑著作年譜」参照。）。

霧社事件関係者として有名な佐塚佐和子（霧社分室主任佐塚愛祐（1886～1930）長女、1914～1977）が台湾で「サヨンの鐘」関係の歌を歌ったことにつき、下村①169 頁、鈴木

白いハンケチ 基隆港（キイルンみなと） 霧にかすんだ 南の星よ

4 流れながれて 旅から旅へ 港ぐらしの浮寝鳥（うきねどり）

おもひだすのは あの頃あの夜 若い旅路の 南の星よ

¹³ これに関連して、平成 19（2007）年 6 月に、台湾のまるやか翁（りょうらいふく氏、1922～？）が管理、運営し、同地のヤベ氏（葉雪淳氏、1930～？）及び我が台湾諸学研究者三田裕次氏のお二方が協力されている台湾の HP サイト「古い記憶のメロディー」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉上の「ゲストブック」過去ログ⑩、⑪で、「サヨンの鐘」につき、KMT 氏より様々なことが指摘されており、「サヨンの鐘」作詞過程についても、寔に興味深い見解が出ている（「平成 19 年 6 月 20 日記事」参照。これには、現在花蓮・吉安（旧吉野村）御在住の葉梅松老師（95 歳）の関連記載がある。）。また、その後、同平成 19 年 11 月 12 日、台湾の澤庵氏の HP「植民世代」中の「歌曲『莎韻之鐘』相關文獻的查證」にも、貴重な記事が掲載された。

〈<http://tw.myblog.yahoo.com/jw!VC00iUmLHwKalCCy98M4/article?mid=104&prev=-1&next=97>〉

明前掲各書、後掲『理蕃の友』⑦各参照。佐塚につき後掲 6 (5) も参照。鈴木は、後掲 6 (2) に見る「幻想組曲『サヨンの鐘』」(ポリドール、昭和 51 年刊) にも関係している。なお、「サヨンの鐘」のレコード吹込者は、渡辺はま子の他には、胡美芳(1926～2009.11.7)¹⁴がいる。

「サヨンの鐘」のレコード化は、前述(この他下村①167 頁等)のように、渡辺はま子が時の台湾総督長谷川清(海軍大将、1883～1970)に依頼した由であるが、渡辺が長谷川と如何なる面識があったかについては詳細不明である。例えば、長谷川の第三艦隊司令長官在任は昭和 11 年 12 月～同 13 年 4 月(支那方面艦隊司令長官兼任は昭和 12 年 10 月 20 日～同 13 年 4 月 24 日。)であるが、渡辺は昭和 13 年 3 月 19 日から 2 週間、東京日日新聞社(昭和 18 年より毎日新聞社。)の皇軍慰問芸術団の一員として中支(上海、南京)に行っており、あるいはこの時期の関係かとも思われるが、今後の課題である¹⁵。前記「サヨンの鐘」に関する NHK 報道番組¹⁶も、渡辺は当時病のため、その息女の談を報じているが、その詳しいことには言及されていない。

なお、長谷川清と「サヨンの鐘」については、東達夫「サヨンの鐘」『長谷川清伝』(長谷川清伝刊行会、昭和 47 年 1 月 25 日刊) 357、358 頁参照。その経緯については、後掲『理蕃の友』第 117 号(昭和 16 年 9 月)が詳しいが、東によれば、当時の督府警務局理蕃課長土光加壽男(?～1988、86 歳)が長谷川にサヨンの功績を推奨した由である¹⁷。

(2) 歌詞

歌詞については、後掲『理蕃の友』第 112 号(昭和 16 年 9 月刊)第 9 面に記載され、

¹⁴ 「You Tube」での胡美芳の歌については、下記のサイト(平成 20 年 4 月 6 日掲載)参照。
<<http://jp.youtube.com/watch?v=ZiWC7DW4HfU>>。ただし、これは、その後、再訂稿作成時の同年 6 月 30 日には閲覧不能になっていたが、同年 9 月 29 日、新たにまた掲載された。
<http://jp.youtube.com/watch?v=MTW9_2gFu2U>(平成 21 年 1 月 9 日修正)(補記)胡美芳のものについて、平成 22 (2010) 年 4 月 25 日に新たなものがアップされたようである(平成 22 年 9 月 20 日追加)。

¹⁵ 上記慰問団関係文献としては、渡辺はま子『あゝ忘れぬ胡弓の音 渡辺はま子フォト自叙伝』(戦誌刊行会、昭和 58 年 10 月 15 日刊)、中田整一(1941～)『モンテンルパの夜はふけて 気骨の女渡辺はま子の生涯』(NHK 出版、平成 16 年 2 月 25 日刊) 65 頁、服部良一『ぼくの音楽人生』(中央文芸社、昭和 57 年 10 月 1 日刊) 165 頁以下等がある。

(補記 1) 甚だ迂闊なことであったが、最近、さる識者より、後掲『長谷川清伝』(長谷川清伝刊行会、昭和 47 年 1 月 25 日刊)に、渡辺はま子の回想が出ているとの御示教を受けた。追って補正の予定でいる。(平成 21 年 12 月 30 日追加)

(補記 2) 上記(補記 1)の文献は、渡辺はま子「思い出」『長谷川清伝』(長谷川清伝刊行会、昭和 47 年 1 月 25 日刊) 425～427 頁であった。これで、渡辺はま子と長谷川総督との関係が判明する。(平成 22 年 9 月 15 日追加)

¹⁶ 前掲「初めて戦争を知った [2] 幻の歌 “サヨンの鐘の謎”」(NHK ドキュメンタリー、平成 3 年 8 月 3 日放映) 参照。

¹⁷ サヨン遭難時の警務局理蕃課長は宮尾五郎(元台南州知事、1900～1993)である。また、平成 17 (2005) 年 11 月 7 日長谷川の長男肇氏(元台湾協会常務理事)が逝去されている。

また、戦後も各種資料に出ているが、表記の仕方も様々である。よって、ここでは、『西條八十全集 第九巻 歌謡・民謡Ⅱ』（国書刊行会、平成 8 年 4 月 30 日刊）126、448～449 頁のものを掲載しておく。なお、西條八十に関する最近のものとして、吉川潮（1948～）『流行歌（はやりうた） 西條八十物語』（新潮社、平成 16 年 9 月 24 日刊）、筒井清忠（1948～）『西條八十』（中央公論新社、平成 17 年 3 月 10 日刊）等がある。

○サヨンの鐘（昭和 16 年 10 月 西條八十作詞、古賀政男作曲、渡辺はま子歌）

嵐吹きまく峰（みね）ふもと 流れ危（あや）ふき丸木橋
渡るは誰（たれ）ぞ うるはし乙女 紅（あか）きくちびる ああ サヨン

晴の戦（いくさ）に出（い）でたまふ 雄々し師の君 なつかしや
担（にな）ふ荷物に 歌さえ朗（ほが）ら 雨はふるふる ああ サヨン

散るや嵐に 花一枝（はなひとえ） 消えて哀しき水けむり
蕃社（ばんしゃ）の森に小鳥は啼（な）けど なぜに帰らぬ ああ サヨン

清き乙女の真心を 誰（たれ）か涙に俣ばざる
南の島のたそがれ深く 鐘は鳴るゝゝ ああ サヨン

(3) 曲譜

多数の方が個人的には種々採譜しているが、不思議に公刊物としては意外となかなか見当たらない。例えば、(財)古賀政男音楽文化財団（東京都渋谷区上原 3 丁目 6-1-2、「古賀政男記念博物館」あり。）の御教示では、下記のものがある。その他を知らない。更なる御教示を乞いたい。

① 『古賀政男 110 名曲集 古賀政男生誕百年記念 ギターでつまびく 我が心の歌』（全音楽譜出版社、平成 15 年 11 月刊）103 頁

(4) 中国語版

「サヨンの鐘」の中国語版として有名な「月光小夜曲」は、現在では、例えば江音の CD 「群星会 27」等で聴ける。その他、台湾のネットの各サイトでも紹介されている。例えば、「You Tube」、「YOU MAKER」等中の「月光小夜曲」で多数検索できる。

〈http://jp.youtube.com/results?search_query=%E6%9C%88%E5%85%89%E5%B0%8F%E5%A4%9C%E6%9B%B2&search_type=〉

この他、広東語のものであるが、「每當變幻時」（広東語。1977 年、薰妮。張偉文等）も、「You Tube」で見ることができる¹⁸。（平成 22 年 9 月 15 日追加、同年 9 月 20 日修正）

¹⁸ 薰妮関係のサイトとして、例えば下記のを参照。

また、喜久四郎後掲論稿（5（3）『台湾協会報』②、51頁）によれば、当時リヨヘン社の後身の武塔村の武塔小学校で、詞曹克昌、曲改編白健光「灑韻的鐘」なるものが歌われていたとの由である。

5 映画

(1) 映画資料

映画『サヨンの鐘』（満映・松竹提携作品、清水宏（1903～1966）監督、昭和18年7月1日封切作品）については、平成年代に入ってから、ビデオ（松竹ビデオ事業部、VHS、平成4（1992）年8月21日刊）が発売され、容易に見ることができるようになった¹⁹。

その後、平成25（2013）年春下記のDVDが出て更に便利になった。

『サヨンの鐘 松竹映画 銀幕の名花 傑作選』 [DVD] [2013年5月10日発売]

李香蘭（出演）、近衛敏明（出演、1911～?）、清水宏（監督） 形式: DVD

〈http://www.shochiku-home-enta.com/shop/item_list?category_id=300762〉

〈<http://www.lohas-plaza.com/goods/SYK-148-157.htm>〉（DVD関係について平成26年11月2日追加）

映画資料としては、例えば次のものがある。

① 映画脚本『サヨンの鐘』（『台湾時報』281号、昭和18年5月15日）（中島利郎編『台湾戯曲・脚本集五』（日本統治期台湾文学集成14、緑蔭書房、平成15（2005）年2月28日刊）391～410頁に再録。）

② 田村志津枝（1944～）『はじめに映画があった 植民地台湾と日本』（中央公論新社、平成12（2000）年8月10日刊）205頁以下

③ 川瀬健一「日本統治時代の台湾映画史と施策」（財交流協会日台交流センター編『歴史研究者交流事業研究成果報告書（派遣）（下）』（財交流協会、平成15（2003）年3月25日刊）813頁以下。

④ 洪雅文（?～）「戦時下の台湾映画と『サヨンの鐘』」岩本憲児（1943～）編『映画と「大東亜共栄圏」』（森話社、平成16（2004）年6月24日）181頁以下

⑤ 窪田守弘（1944～）『銀幕の即興詩人 清水宏の生涯と作品』（風媒社、平成20（2008）年3月25日刊）映画『サヨンの鐘』の件に詳しい。44、87、90、119、120、144、150、151、153、216～224、244、331、352、358、379、380、400、401頁。（平成22年1月15日追加）

（補記1）（平成21年12月30日追加）

・〈http://www.vinylparadise.com/4pop_can/1/035FL00A.htm〉

・〈http://yourenergy.blog.hexun.com.tw/21245477_d.html〉

・〈<http://www.youtube.com/watch?v=120-8BE8E7o>〉（粵語（廣東話）歌曲）。

¹⁹ 平成19（2007）年末頃より、「You Tube」で、当該映画の主要部分が分割されて、次第に見られるようになってきている。例えば、この中で歌「サヨンの鐘」の部分は、以下のものである（平成20年6月30日現在）。〈<http://jp.youtube.com/watch?v=PWow-r6jMDI>〉

最近、さる識者から HP「映画の國」〈<http://eiganokuni.com/>〉中の木全公彦氏「日本映画の玉 清水宏をめぐる3人の監督 実相寺昭雄」の件について示唆を頂戴した。映画『サヨンの鐘』検討に当たり、必見のものであると思われる。

〈http://eiganokuni.com/blog/kimata/2009/04/3text_by.html〉（平成21年4月23日アップか。）

（補記2）（平成22年10月6日追加）

最近、中島利郎教授より、下記の件について御示教を賜った。厚く御礼申し上げる次第である。

「台湾研究的國際化與深化 一天理台灣學會第20屆國際學術紀念大會—

〈<http://www.toho-shoten.co.jp/toho/saiji10-025.html>〉

（中略）

□研究発表

主催：天理台湾学会、中国文化大学

▼日時：2010年9月11日（土）9:30～16:30

▼場所：中国文化大学（台北市陽明山）張創辦人曉峰紀念館國際會議廳

□第3分科会（日本語） 10:00～12:15

座長 李文茹

（中略）

・川瀬健一「『サヨンの鐘』が台湾で上映されなかったのは、何故か」

（本記念大会につき、「記念講演および研究発表論文報告集」があり、C4-1～C4-12頁に、川瀬氏の研究発表論文が掲載されている。C4-12頁には、【主要参考文献】が記載されている。貴重である。なお、前掲渡辺はま子「思い出」『長谷川清伝』〈長谷川清伝刊行会、昭和47年1月25日刊〉参照。）

（補記3）（平成26年11月2日追加）

平成26（2014）年9月7日に映画『サヨンの鐘』の主役の山口淑子氏（李香蘭、1920～2014）が逝去された（同年9月14日公表）。その後多くの追悼記事が出たが、特に映画『サヨンの鐘』関係については、近藤伸二教授「李香蘭が残した足跡（連載）最近の台湾情勢」『台湾協会報』第721号（同年10月15日刊）がある。

（関係文献追加）：田中真澄・佐藤武・木全公彦・佐藤千広（編集）『映画読本・清水宏—即興するポエジー、蘇る「超映画伝説」』（フィルムアート社、平成12年7月1日刊）

（2）映画主題歌、挿入歌

映画『サヨンの鐘』の主題歌、挿入歌のレコード（A面：「サヨンの歌」、B面：「なつかしの蕃社」）については、戦後のものとして、「日本映画主題歌集5 戦前編 1941～44」（コロムビアミュージックエンタテインメント、平成7年9月30日刊、SP復刻版、曲目解説 森一也）がある。なお、映画の最後の場面で、歌「サヨンの鐘」も、その四聯が歌われ

ている。

① 「サヨンの歌」(A面:映画『サヨンの鐘』主題歌、西條八十作詞、古賀政男作曲、仁木他喜雄(1901~1958)編曲、李香蘭歌、コロムビア、昭和18年1月28日録音、同5月20日発売、旧レコード番号1100690A)

歌詞、曲譜掲載書は、例えば、以下のとおりである。

ア 『西條八十全集 第九巻 歌謡・民謡Ⅱ』(国書刊行会、平成8年4月30日刊)157~158頁

イ 長田暁二(1930~)『日本軍歌大全集』(全音楽譜出版社、発行年月不詳)344頁

ウ 『日本の歌 第2集 昭和(1)』(野ばら社編集部、平成10年6月1日刊)389頁

● 「サヨンの歌」

西條八十(1892~1970)作詞、古賀政男(1904~1978)作曲、李香蘭(1920~[2014])歌

1 花を摘み摘み 山から山を 歌いくらして 夜霧に濡れる わたしゃ気まぐれな
蕃社の娘 親は雲やら 霧じゃやら ハイホー ハイホー

2 谷の流れが 化粧の鏡 森の小枝が 緑の櫛(くし)よ わたしゃ朗らか
蕃社の娘 花のかんむりで 一踊(ひとおど)り ハイホー ハイホー

3 月の夜更けの 杵唄(きねうた)聞いて 何故に涙よ ほろほろ落ちる わたしゃ年
頃 蕃社の娘 深山(みやま)育ちの 紅(あか)い花 ハイホー ハイホー

4 紅(べに)の櫛(ひのき)に 黒髪寄せて 遠く眺める 浮世の灯かり 泣くな可恋
鳥(カーレン) おまえが啼けば 山の蕃社に 霧が来る ハイホー ハイホー

なお、本歌のネット資料については、以下のとおりである²⁰。

「You Tube」 西條八十作詞、古賀政男作曲、李香蘭歌

平成20年3月28日掲載 <<http://jp.youtube.com/watch?v=g3gO5fOpRck>>

② 「なつかしの蕃社」(B面:映画『サヨンの鐘』挿入歌、西條八十作詞、古賀政男作曲、霧島昇(1914~1984)・菊池章子(1924~2002)歌、コロムビア、昭和18年1月28日録音、同5月20日発売、旧レコード番号1100690B)

歌詞、曲譜掲載書は、例えば、以下のとおりである。

ア 『西條八十全集 第九巻 歌謡・民謡Ⅱ』(国書刊行会、平成8年4月30日刊)158、453頁

イ 長田暁二『日本軍歌大全集』(全音楽譜出版社、発行年月不詳)345頁

ウ 『日本の歌 第8集 昭和初~2000補遺』(野ばら社編集部、平成16年3月1日刊)80、81頁

● 「なつかしの蕃社」

西條八十作詞、古賀政男作曲、霧島昇(1914~1984)・菊池章子(1924~2002)歌

1 春はやさしい 緋桜(ひざくら)が 赤く七つの 峰染めて

²⁰ 台湾のHP「古い記憶のメロディー」中の「思い出の曲アルバム」及び「軍歌、戦時歌謡アルバム」には、このメロディーが収録されている <<http://www.geocities.jp/abm168/>>。

- | | |
|---|--------------------------------|
| 谷はペタコの 歌ばかり
蕃社（ばんしゃ）の村はなつかしや | おもひでの おもひでの |
| 2 霧がふるゝゝ 秋の夜に
旅のところが また痛む
蕃社の村は なつかしや | 聞いた杵歌（きねうた） 愛の歌
おもひでの おもひでの |
| 3 けふが別れと ふり返る
泣いて手をふる 君や誰（たれ）
蕃社の村は なつかしや | 小雨さびしい 山の径（みち）
おもひでの おもひでの |

なお、本件のネット資料については、例えば、以下のとおりである²¹。

「You Tube」 西条八十作詞、古賀政男作曲、霧島昇・菊池章子

平成 20 年 3 月 28 日掲載 <<http://jp.youtube.com/watch?v=lNK3eHxocRs>>

- ③ 「山の合唱」（古賀政男作曲、昭和 18 年 1 月、映画『サヨンの鐘』挿入歌、レコード化はされずとの由。）

歌詞は、例えば、下記のとおりである。

ア 『西條八十全集 第九卷 歌謡・民謡Ⅱ』（国書刊行会、平成 8 年 4 月 30 日刊）158～159、453 頁

- ③ 「台湾軍の歌」（台湾軍報道部作詞、山田栄一作曲、灰田勝彦（1911～1982）歌、昭和 15 年 10 月、日本ビクター）²²も、現在では、各種ネットサイトで聞けるようになっている。

6 その他

(1) 田北正記氏のこと

「サヨンの鐘」のモデルとなった田北正記氏（昭和 13 年当時台北州下のリヨヘン駐在所勤務の警手、当時 26 歳、? ～1980、享年 68）につきては、戦後、郷里宮崎市の『宮崎日日新聞』昭和 54（1979）年 3 月 26 日第 14 面に同氏の回想談（『サヨンの鐘』のモデル健在 田北さん 宮崎市に 台湾娘、哀話の真相を語る」の記事）が掲載されたこと及びその死因が事故死のことは、判明していた（下村教授①161、162 頁。ただし、同稿は「3 月

²¹ 台湾の HP「古い記憶のメロディー」中の「思い出の曲アルバム」及び「軍歌、戦時歌謡アルバム」には、このメロディーが収録されている <<http://www.geocities.jp/abm168/>>。

²² 「台湾軍の歌」の題名、作詞者等は、ネットがいろいろと伝えているためと思われるが、何故か、今ではやや理解が難しい。例えば、台湾の HP「音願値針 蓄音機 SP レコード 骨董 辺境の旅」は、当該レコードを掲載し、「台湾軍の歌」を「台湾派遣軍の歌」と称して HP で記述している例もあるがこれはまったくの誤りであり、作詞「本間雅晴中将」、作曲大沼哲と記述しているが作詞「台湾軍報道部」、作曲山田栄一が正しい。作詞「本間雅晴中将」、作曲大沼哲とはこの曲とはまったく別物の「光輝かがやく台湾軍」と言う曲である。また、この曲とは別に同名の「台湾軍の歌」があるがこれは昭和 7 年台湾軍司令部参謀部（懸賞作品白坂義道作詞 長保征夫作曲）で作られた曲がある。」との説明を載せている。 <<http://blogs.yahoo.co.jp/axttony/8437483.html>>。

「台湾軍の歌」について、詳しくは、本 HP 掲載の別稿「台湾軍の歌」覚書—日本統治下台湾諸歌の一齣一（平成 20 年 6 月 1 日作成。五訂稿：平成 21 年 8 月 12 日作成。）参照。 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/taiwangunka.pdf>>（平成 20 年 6 月 30 日追加、平成 21 年 1 月 8 日、平成 21 年 12 月 30 日修正）

20日」記事というが、これは誤植か。)

同氏の逝去について、先般、さる識者より、田北氏が昭和55年1月14日に宮崎市で「交通事故」にて逝去されしことの教示をいただいた(『宮崎日日新聞』昭和55年1月16日第13面記事参照)。すなわち、同紙は、「自転車の老人死亡 横断中に乗用車(ママ、実際はトラック)と衝突」と題して、「1月14日午後5時40分ごろ、宮崎市老松1丁目の市道交差点で同市宮脇町無職田北正記さん(68)が東諸県郡国富町の靱木幸義さん(21)運転のトラックと接触、頭の骨を折って、4時間後に死亡。事故はトラックの責任。」との記事を掲載している。ただし、ここでは、「サヨンの鐘」のことについては言及されていない。なお、後掲「愛国乙女 サヨンの鐘」『理蕃の友』第117号(昭和16年9月刊)中に、当時の同氏の写真が掲載されている。

(2) 「幻想組曲『サヨンの鐘』」

昭和51(1976)年に東海林修「幻想組曲『サヨンの鐘』」(ポリドール)が出されり。鈴木明氏が関係し、野口久光氏(1909~1994)²³が解説を書いている。なお、これは、平成14(2002)年に復刻との由であるが、未見である。本「幻想組曲『サヨンの鐘』」については、例えば、〈<http://www1.ocn.ne.jp/~shoji/sayon.html>〉参照。ここに、野口久光「〜組曲「サヨンの鐘」を聴いて 野口 久光〜」も掲載されている。(平成22年1月15日一部修正)

(3) 『台湾協会報』所収論稿

『台湾協会報』に掲載された「サヨンの鐘」関係論稿には、例えば、以下のものがある²⁴。

- ① 海野幸一「日台満合作映画『サヨンの鐘』について」：第406号、昭和63年7月15日刊(参考：天野一男「お尋ね」第405号、昭和63年6月15日刊)
- ② 喜久四郎(1925~[2018])「サヨンの里を訪ねて」：(上)第418号、平成元年7月15日刊、同(下)第419号、平成元年8月15日刊
- ③ 鈴木健三「サヨンの鐘と(塩月)桃甫先生²⁵のことども」：(前)第426号、平成2年3月15日刊、同(後)第427号、平成2年4月15日刊(台北一中同窓会誌『麗正門』より転載の由。)
- ③ 中村信子(1930~)「蘇澳・南方澳と私の祖父—最初に土着した民間日本人—」：第601号、平成16年10月15日刊(サヨンの出身地の近時リヨヘン村のことにも言及する。中村氏は『植民地台湾の日本女性生活史』全4巻(田畑書店、平成7~13年刊)の著者で

²³ 野口久光：映画、音楽評論家、画家。詳しくは、例えば下記参照。

〈<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%8E%E5%8F%A3%E4%B9%85%E5%85%89>〉

²⁴ この他、個人的に、「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑—「日本統治下台湾警察史の一齣」『台湾協会報』第606号(平成17年3月15日刊)を掲載した。

²⁵ 塩月桃甫(1886~1954)：同氏は、上述のように、当時台湾の著名な画家。例えば下記のサイト参照。ここには、画「台湾の娘」が掲載されている。

〈http://www.miyazaki-c.ed.jp/himukagaku/unit/yume_07/page1.html〉

ある。)

⑤ 吉良八郎「中村信子さんの『蘇澳・南方澳と私の祖父』を読んで」：第 608 号、平成 17 年 5 月 15 日刊

⑥ 「壽智恵子氏の思い出」：第 713 号、平成 26 年 2 月 15 日刊（平成 26 年 11 月 2 日追加）

⑦ 近藤伸二「李香蘭が残した足跡（連載）最近の台湾情勢」：第 721 号、平成 26 年 10 月 15 日刊（平成 26 年 11 月 2 日追加）

（参考）

・喜久四郎（1925～[2018]）「映画トロッコ」（昨年 12 月 8 日）上映への付言『台湾研究資料 63 号』（東京台湾の会、平成 25 年 8 月 6 日刊）31～33 頁参照。

〈 [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%88%E3%83%AD%E3%83%83%E3%82%B3\(%E6%98%A0%E7%94%BB\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%88%E3%83%AD%E3%83%83%E3%82%B3(%E6%98%A0%E7%94%BB))〉（平成 26 年 11 月？日追加）

（4）『台湾警察時報』、『理蕃の友』所収論稿

『台湾警察時報』では、加奈原楮（台北州）「蕃界銃後哀話 サヨンの死」『台湾警察時報』第 279 号（昭和 13 年 2 月 1 日刊）101～103 頁等があり、また、『理蕃の友』に掲載された「サヨンの鐘」関係論稿には、例えば以下のものがある。

① 全島高砂族青年代表者大会（昭和 16 年 2 月 20 日皇軍慰問学芸会）：第 111 号、昭和 16 年 3 月刊

② 警務局土屋生「会后雑感」：第 112 号、昭和 16 年 4 月刊

③ 「サヨンの鐘」授与式（昭和 16 年 4 月 10 日）、「愛国少女 サヨンの鐘」：第 113 号、昭和 16 年 5 月刊

④ 「蕃社に鳴る純情『サヨンの鐘』」：第 114 号、昭和 16 年 6 月刊

⑤ 「愛国乙女 サヨンの鐘」（警務局作成資料）：第 117 号、昭和 16 年 9 月刊

⑥ 宮村堅彌（1906～？）「愛国乙女サヨンを讃ふ（1）～（6）」：第 118、119、120、121、122（？）、「124 号、昭和 16 年 10 月～17 年 4 月刊

⑦ 「響く、響く、サヨンの鐘」、「佐塚嬢が追善演奏」：第 120 号、昭和 16 年 12 月刊

⑧ 喜島生「その後のリヨヘン社」：第 123 号、昭和 17 年 3 月刊

⑨ 「純情『サヨン』の詩」：第 131 号、昭和 17 年 11 月刊

（参考：『理蕃の友』は昭和 17 年 12 月で廃刊、戦後緑蔭書房復刻本あり。）

（5）蕃社関係の歌

詳しくは、本 HP 中の別稿「佐塚佐和子歌「蕃社の娘」及び「思い出の蕃山」覚書（六訂稿）」（平成 21 年 1 月 8 日作成）参照。ここでは、「蕃社の娘」、「思い出の蕃山」及び「なつかしの蕃社」について、一、二触れておく²⁶。

²⁶ 「蕃社の娘」及び「思い出の蕃山」の関係アドレスには、例えば、以下のものがある。

① 「古い記憶のメロディー」の「軍歌、戦時歌謡アルバム」（「蕃社の娘」のメロディーのみ。2006（平

① 「蕃社の娘」

昭和 52 (1977) 年 12 月 13 日、佐塚佐和子 (1914~1977。上記 4 (1) 参照。) ²⁷は、横浜市の自宅で逝去した。葬儀は「蕃社の娘」が演奏の中、しめやかに行われた由である。佐塚は、サワ・サツカの名 ²⁸にて、コロンビアレコードより「蕃社の娘」、「思い出の蕃山 (やま)」を出している。詳細は、上記本 HP 中別稿「佐塚佐和子歌「蕃社の娘」及び「思い出の蕃山」覚書」参照。

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/satsuka.pdf>〉

「蕃社の娘」の歌詞は下記のとおりである。歌詞は、『九州日日新聞』昭和 14 年 6 月 10 日 (土) 夕刊第 3 面及び鄧相揚著・魚住悦子訳『植民地台湾の原住民と日本人警察官の家族たち』(日本機関紙出版センター平成 12 年 8 月 15 日刊) 119、144 頁による。

● 蕃社の娘 (栗山白也作詞、唐崎夜雨作曲。唐崎は「雨夜花」の作曲者鄧雨賢 (1906~1944) のこと。) ²⁹

- 1 蕃社 (やま) の娘の純情は 赤い瑪瑙 (めのう) の首飾り
胸に燃え立つ恋の歌 はずむ踊の足拍子
(コーラス) キータトヒヤン (クリカエシ) ヒヤントナ ヒヤン (クリカエシ)
ハンナ イーサメンマンタ ハーハーイ (以下コーラス省略)
- 2 深山 (みやま) 育ちの娘でも 悩みもあるよ恋もある
背戸のパパイヤ稔る (みのる) 頃 泣けてならない夜もある
- 3 峰は千丈尾根越えて 通う心の一筋に
どこまで続く恋ぢややら どうせ果かない流れ星

成 18) 年 3 月 30 日公開、同年 4 月 3 日補填か。)

〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉

② 「桃花開出春風」(「蕃社の娘」)(2007 (平成 19) 年 5 月 18 日公開か。)

〈<http://blog.sina.com.tw/davide/article.php?pbid=28994&entryid=484543>〉

③ 「台湾迷的 78 轉留聲機音樂部落格」 「1939 唐崎夜雨創作蕃社の娘」(「蕃社の娘」)(2008 (平成 20) 年 3 月 1 日公開か。)

〈<http://tw.myblog.yahoo.com/cfz9155cfz0678sv-cfz9155cfz0678sv/article?mid=2399&next=2179&la&fid=33>〉

④ 「古い記憶のメロディー」の「思い出の曲アルバム」(「思い出の蕃山」)。2008 (平成 20) 年 3 月 17 日公開) 〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉

²⁷ 近年霧社事件研究が更に進んでいるが、同事件に絡む女性に関する研究の進展も著しい。例えば、佐塚佐和子については、鄧相揚著・魚住悦子訳『植民地台湾の原住民と日本人警察官の家族たち』(日本機関紙出版センター、平成 12 年 8 月 15 日刊) が詳しいが、近時の全般的な女性研究のものとして、例えば、李文茹「台湾原住民女性の「声」として語ること」『社会文学』第 27 号 (日本社会文学会、平成 20 年 2 月 25 日刊) 54~66 頁参照。

²⁸ 昭和 15 (1940) 年 3 月 28 日の「芸名統制令」で、「佐塚佐和子」に戻ったようである。

²⁹ 平成 22 (2010) 年 9 月 2 日、You Tube に、台湾の方が「蕃社の娘」を掲載されたので、今では身近に聞くことができるようになった。(平成 22 年 10 月 6 日追加)

4 娘心のせつなさは 蕃布（ばんぷ）の綾（あや）に織り込んで
せめてあの日の憶ひ出に 情の糸を交はせる

② 「思い出の蕃山（やま）」

歌詞は、『九州日日新聞』昭和 14 年 6 月 10 日（土）夕刊第 3 面及び「古い記憶のメロ
ディー」の「思い出の曲アルバム」（「思い出の蕃山」。2008（平成 20）年 3 月 17 日公開）
〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉に拠る³⁰。

● 「思い出の蕃山」（栗原白也作詞、竹岡信幸作曲、サワ・サツカ歌）

- 1 ほのかに浮かぶ 思い出は 蕃山（やま）の 狭霧のほの白く
情けに濡れた 百合の露 はかなく消えし 朝の夢
- 2 若きあの日の 想ひ出は 椰子の葉蔭の 月青く
せつなき胸の 苦しみに 乙女心を 泣いた夜
- 3 臉に浮ぶ 想ひ出は かへる我が娘を 待ち侘びて
そば降る雨の つり橋に しよんぼり濡るゝ 母の影

③ 「なつかしの蕃社」（西條八十作詞、古賀政男作曲、霧島 昇・菊池章子歌）

上記 5（2）②参照。

（附録）本 HP 掲載の日本統治下台湾関係歌稿

（平成 20 年 6 月 30 日追加、平成 21 年 1 月 9 日、12 月 30 日、平成 22 年 1 月 15 日、9
月 20 日、10 月 6 日、平成 26 年 11 月 2 日、令和 4（2022）年 7 月 26 日各修正）

本 HP 掲載の日本統治下台湾関係歌稿としては、下記のものがある。

- ・「澤村胡夷と台湾警察歌—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawamura001.pdf>〉

- ・「「台湾警察歌」の作曲者一條慎三郎氏の御業績を巡って— 一條元美氏の御長逝を悼みて—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichijo001.pdf>〉

- ・「『鷺巣敦哉著作集 補遺』（緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊）概要」（「台湾警察歌」
関係あり。）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu003.pdf>〉

³⁰ 平成 21（2009）年 1 月 7 日、さる識者より、「思い出の蕃山」は、早くに、『オリジナル盤による秘蔵盤・昭和（SP 時代）の流行歌』（発売元：日本コロムビア、昭和 55 年 7 月刊）に収録されていた（第 19 面、150 思い出の蕃山）ことを指摘された。多年まったく知らずにおり、寔にお恥ずかしい次第である。なお、「古い記憶のメロディー」の「思い出の曲アルバム」（「思い出の蕃山」）は、出処不明であるが、その解説も含めて、おそらくや、上記『オリジナル盤による秘蔵盤・昭和（SP 時代）の流行歌』（レコード、解説編）を利用されたものと思われる。（平成 21 年 1 月 9 日追加）

・「台湾総督府警察官及司獄官練習所歌覚書―「椰子の実みのる」及び「彩雲めぐる」をめぐって― ―日本統治下台湾警察史の一齣―

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/reushushouta.pdf>〉

・「「サヨンの鐘」によせて―「サヨンの鐘」資料一斑―

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sayun001.pdf>〉

・「「サヨンの鐘」関係文献抄―本 HP 別稿「「サヨンの鐘」によせて―「サヨンの鐘」資料一斑― 参考資料―」（本稿）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sayunbunken.pdf>〉

・「再び澤村胡夷作詞「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」について―日本統治下台湾警察史の一齣―

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/futatabi.pdf>〉

・「佐塚佐和子歌「蕃社の娘」及び「思い出の蕃山」覚書」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/satsuka.pdf>〉

・「「台湾軍の歌」覚書―日本統治下台湾諸歌の一齣―

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/taiwangunka.pdf>〉

・「ネット等に聴く戦前期の台湾歌謡曲―「雨夜花」と「サヨンの鐘」を中心に― ―日本統治下台湾諸歌の一齣―

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/netkayo.pdf>〉

・台北帝国大学予科「逍遥歌 高砂周遊の歌」関係資料一斑

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shoyoka001.pdf>〉

（了）